

政策の取組状況 2023-2024 概要版

「ひとが真ん中。」

1 ひとを**守る**

自然災害や感染症などのリスクをあらゆる角度から想定し、被害を最小限に抑え、市民の生命と財産を守ります。

2 ひとを**育む**

妊娠・出産・子育てから大学などの高等教育まで切れ目のない支援で、誰もが安心して子どもを産み育てることができる環境をつくれます。

3 ひとを**支える**

少子高齢化による地域コミュニティの衰退などに備え、誰もが役割を持ち、お互いに支え合い、自分らしく輝ける社会の実現をめざします。

4 ひとを**豊かに**

市民生活の向上と心豊かな暮らしを実現します。また、このまちを次世代へ引き継ぐため、持続可能なまちづくりを進めます。

5 ひとを**元気に**

人とまちが元気に輝き続けられるよう、新たな魅力が生まれるまちづくりを進めます。

1 ひとを守る ～安全・安心な医療・防災体制の構築～

◆救急医療の電話相談「#7119」を開始(2024年10月～)

急な体調不良やケガで病院を受診すべきか、救急車を要請すべきか迷うような場合に、専用電話で看護師等からのアドバイスを受けることができる電話相談窓口を開設しています。 ※県内では初導入(2025年7月から県主体で全県導入予定)

◆消防指令業務の共同運用を開始(2024年10月～)

消防指令業務のシステム整備に係る財政負担の軽減、情報の一元化による応援の迅速化等を図るため、県下14消防本部の119番通報を本市の「おおいた消防指令センター」が一手に受け付けています。 ※都道府県単位での一本化は全国初

◆新たな防災拠点施設「へつぎ防災広場」の供用開始(2024年10月～)

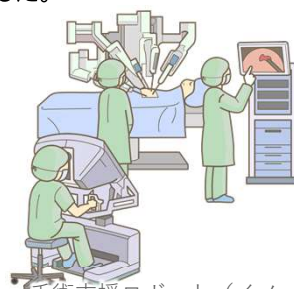
災害救援物資の輸送拠点機能と風水害時における地域住民等の緊急避難場所機能を併せ持った防災拠点施設「へつぎ防災広場」を戸次地区に整備・運用開始し、南海トラフ巨大地震等に備えています。

◆新型コロナウイルスワクチンの定期接種(2024年10月～2025年3月)

2024年度は予防接種法上の定期接種として位置付けられ、65歳以上の方などを対象に接種しました。

◆「おおいた医療ネット」の運用を開始(2024年7月～)

より良い医療サービスを提供するため、患者の同意のもと、地域の医療機関等(病院、診療所、薬局)が、ICTを活用して、診療情報(服薬状況、検査結果など)を相互に共有・閲覧し、市民の健康を支えています。



手術支援ロボット (イメージ)

◆手術支援ロボットの導入・普及を支援(2024年4月～)

先進医療の導入及び普及を図るため、医療機関が行う手術支援ロボットを導入する際に行う研修費用等を補助しています。

2 ひとを育む ～妊娠・出産から子育て、高等教育まで切れ目のない支援～

◆保育料無償化の拡充(2024年4月～)

認可外保育施設を利用する保育の必要性がある第2子以降の0、1、2歳児の保育料を無償化(月額上限3万5千円)しています。

◆利用しやすい病児保育制度に向けた取組(2024年4月～)

家庭での育児が困難な病気のこども(入院などの必要がない0歳～小6)を日中一時的に預かる病児保育施設の安定的な運営への支援や、申請手続きの見直しによる利用者の負担軽減など、利用しやすい制度となるよう取り組んでいます。

◆子ども医療費助成の拡充(2024年4月～)

2024年4月診療分から助成の対象を高校生年代(18歳)までに拡大しています。 ※拡大前の対象者は15歳まで



子ども医療費(イメージ)

◆返還免除型の奨学資金の創設(2024年4月～)

進学を志す学生の経済的な負担軽減と卒業後に本市で活躍する人材の育成・確保を目的に、所得制限なしの返還免除型の奨学資金制度を創設しました。 ※令和7年度入学者から対象

◆ヘアロスのこどもへの支援(2024年4月～)

疾病等により脱毛症状を抱える小中高生等の経済的負担及び日常生活の心理的負担の軽減を図るため、医療用ウィッグの購入費用等への助成を開始しています。

◆小学校5年生のピロリ菌検査(2024年4月～)

小学校5年生の希望者を対象にピロリ菌の検査を行い、検査後から除菌治療までの間、継続的にフォローアップすることで将来の胃がん等のリスクを軽減します。

◆不登校の未然防止(スロースタートプログラム)(2024年4月～)

学期始めの授業時数の軽減等により、児童生徒がゆとりをもって学校生活を始める「スロースタートプログラム」を2024年4月から実施するとともに、不登校対策の総合プランとなる「OITA COCOLO PLAN」を策定したほか、2025年度からは夏季休業期間の延長を行います。

◆学校給食費の無償化(2024年1月～)

食費や教育費等がかさむ中学生の子どもがいる子育て世帯の支援のため、市立中学校(碩田学園後期課程を含む)に在籍する生徒の学校給食費を2024年1月提供分から無償化しています。

◆保育所等でのおむつ処分(2023年10月～)

保護者等の負担軽減を図るため、使用済み紙おむつを認可保育所等で処分できるように、必要な備品の購入や処分費の支援を実施しています。

3 ひとを支える～誰もが役割を持ち、お互いに支え合い、自分らしく輝ける社会～

◆介護DXの先行実証(2025年1月～)

今後も要介護・要支援認定者数の増加が続くと見込んでおり、要介護認定の効率化に向けて、オンライン参照などのデジタル化に関する国のモデル事業に参加しています。

◆地域の居場所づくりを推進(2024年4月～)

地域における共助に関する取組を活性化させるため、地域の多様な世代やさまざまな立場の人への交流活動および食事の提供等をする民間団体等の活動に対して補助しています。

◆貨物運送事業者への支援(2024年4月～)

燃油価格高騰に加え、2024年問題に直面する貨物運送事業者を支援することで、中小企業者の競争力を強化しています。

◆おおいたパートナーシップ宣誓制度の導入(2023年9月～)

性的マイノリティの方々の基本的人権を尊重し、多様性を認め合うことで誰もが暮らしやすい地域社会の実現に向け、「おおいたパートナーシップ宣誓制度」を導入・運用しています。



おおいたパートナーシップ宣誓制度のマーク

◆行政改革の再構築(2023年6月～)

6年ぶりに事務事業の見直しを再開し、社会情勢の変化等により必要性が低下している事業、費用対効果が低い事業、事業の目的が重複している事業等を中心に見直しを行うとともに、内部評価及び外部評価の更なる強化を図りました。

◆広域圏の事業を推進(2023年5月～)

県内自治体と連携可能な事業を調整し、広域化・共同化によるメリットを生かしながら、広域連携事業を実施しています。

※主な事業【下水汚泥燃料化施設、歩行者天国、おおいた公共施設案内/予約システム、新環境センターの整備、図書館の相互連携など】

◆障がい者の職場実習を促進(2023年4月～)

一般就労を希望する障がい者と障がい者雇用に取り組もうとする企業をマッチングし、職場実習を実施した企業と障がい者の双方に奨励金を交付しています。

4 ひとを豊かに～市民生活の向上と心豊かな暮らしの実現～

◆全国豊かな海づくり大会の関連イベントを開催(2024年11月)

水産物の消費拡大と環境保全の啓発を行うとともに大会の機運醸成を図るため、2024年11月9日・10日に「豊かな海」とその保全について考え、学ぶイベント「豊かな海づくりフェスタ」を開催しました。

◆下水汚泥の燃料化施設の供用開始(2024年10月～)

地球温暖化の防止や循環型社会の形成に向け、大分市及び県内8自治体から排出される下水汚泥を市内に建設した下水汚泥燃料化施設に集約し、その汚泥から固形燃料を製造後、石炭等の代替燃料として利用しています。

◆若手起業家を育成する拠点整備(2024年10月～)

若者同士が出会い、交流を深め、情報共有等ができるコミュニティ機能と、起業に関する相談窓口やイベント開催などのサポート機能を備えた拠点施設「Mirattend(ミラテンド)」をオープンしています。

※Mirattendとは、「未来+アテンド」の造語で「若手起業家が理想の未来に向かって社会全体をアテンドする」などの意味

◆水素エネルギーの活用を推進(2024年8月～2025年3月)

既存のインフラを活用した水素供給低コスト化に向けたモデル構築・FS(Feasibility(フィージビリティ) Study(スタディ))事業について、本市が県や民間企業と共同して国に応募し、採択されました。

◆中央通り線の歩道の修景整備(2024年4月～)

中央通り線の歩道のリニューアルに伴い舗装の一部に市有林の間伐材や中央通り線の老木をリサイクルした木質ブロックを使用することで、カーボンニュートラルの取組を推進しました。



木質ブロック(イメージ)

◆中九州横断道路の整備を推進(2023年11月～)

機運の醸成を図るため、市内で中九州横断道路リレーシンポジウムを2023年11月に開催し、2024年11月には県によるステップアップシンポジウムが市内で開催され、参加しました。

◆工場夜景クルーズの実証(2023年11月～)

製造品出荷額等が九州第1位を継続し、全国第8位と九州・日本の工業をけん引するとともに、カーボンニュートラルの実現に向けた取組を進めている本市の臨海部の工場群を活用し、産業観光の新たなコンテンツ造成等を推進しています。



5 ひとを元気に

～ひととまちが元気に輝き続け、
新たな魅力が生まれるまち～

◆魅力発信の新たな制度を創設(2024年9月～)

大分市をより広くPRするため「大分市魅力発信応援制度」を創設し、幅広い分野で活躍されている本市ゆかりの方に「大分市魅力発信アンバサダー」として就任いただき、様々な機会を通じて本市の魅力を発信していただいています。

◆おおいた「夢」花火の開催(2024年9月)

県都大分市で5年振りとなる大規模な花火大会、「おおいた夢花火」を大分川弁天大橋上流で開催しました。



◆アートでつなぐ まちのにぎわい創出(2024年9月～2025年7月予定)

中心市街地の周遊性を高めるため、県立芸術緑丘高校や県立鶴崎工業高校、県立芸術文化短期大学、障がい者等によるアートを展示しています。

◆アーティストバンク推進事業の実施(2024年1月～)

文化・芸術活動を行う団体や個人(アーティスト)とその発表の場(スポット)を繋げるため、専用ウェブサイト「POART」を開設したほか、普及啓発イベント等を実施しています。



◆アーバンスポーツイベントの開催(2023年10月～)

スポーツによる新たな魅力の創出に向け、パリオリンピックでも若者を中心に盛り上がりを見せたスケートボードをはじめとする各種アーバンスポーツが体験できるイベントを開催しています。



◆公園における芝生広場の整備(2023年6月～)

誰もがより安全に楽しみながら運動のできる環境を整備するため、横尾1号近隣公園(横尾あおぞら公園)及び横尾3号街区公園(中筋ふれあい公園)を整備したほか、中心部でも検討しています。

◆スポーツ合宿の誘致を推進(2023年4月～)

パリオリンピックで躍進したフェンシング・サーブル日本代表をはじめとしたスポーツ合宿等を誘致し、合宿期間中は、練習の公開や小中学生等の地域住民との交流事業を実施しています。

大分市長プロフィール



足立信也(あだち しんや)

生年月日 1957年(昭和32年)6月5日
出身地 大分市上戸次
趣味 スポーツ観戦
座右の銘 紅蓮(Warm Heart Cool Head)

学歴

1976年(昭和51年) 大分県立大分舞鶴高等学校 卒業
1982年(昭和57年) 筑波大学医学専門学群 卒業
1990年(平成2年) 医学博士(筑波大学)

職歴

1982年(昭和57年) 筑波大学附属病院医員(研修医)
1984年(昭和59年) 筑波大学附属病院医員
1988年(昭和63年) きぬ医師会病院外科診療科長
1994年(平成6年) 筑波大学臨床医学系外科講師
2003年(平成15年) 筑波大学臨床医学系外科助教授
2003年(平成15年) 国立霞ヶ浦病院消化器科医長
2004年(平成16年) 筑波メディカルセンター病院診療部長
2004年(平成16年) 第20回参議院議員選挙(大分県選挙区)で初当選
2009年(平成21年) 厚生労働大臣政務官
2010年(平成22年) 第22回参議院議員選挙(大分県選挙区)で2期目当選
2011年(平成23年) 筑波大学客員教授
2016年(平成28年) 第24回参議院議員選挙(大分県選挙区)で3期目当選
2022年(令和4年) 一般社団法人 新時代戦略研究所 研究顧問
2023年(令和5年) 大分大学客員教授
2023年(令和5年) 大分市長就任

「政策の取組状況」の詳細はこちら→



大分市ホームページ>ホーム>市政情報
>Web市長室>政策の取組状況について